

舗装打換工(土工部)作業手順書

項 目	内 容	留 意 事 項
準 備 工	<p>①作業打合せ(KY活動) ※現場責任者は、簡易風速計を携帯する。 作業内容及び規制内容の確認 作業人員及び車両配置の確認 保護具の点検 使用機械、資材、工具の点検 切削機始業点検</p>	<p>・資機材等落下災害及び飛散防止ネット転倒に関するKY活動を必ずいれて実施する。 指示内容確認・安全打合せ書による確認及びKY活動 作業別安全チェックシートの活用・マニフェストの確認 合材プラント及び廃材処理施設の確認 切削機始業点検は、点検要項にそって点検を行う。 点検にて異常に気づいた場合は、使用せずに指定サービス工場で点検を受ける。</p>
舗装切断工	<p>・現場KYと安全確認(資機材等の落下災害防止、飛散防止ネット転倒防止) 舗装カッターに水を入れ、補修箇所端末予定ラインにそって所定の深さで舗装面にカッターを入れる。 機械使用後、路肩に置く場合は、歯止めを設置する。</p>	<p>・現地打合せを行い、作業方針を関係者へ周知する。 センターライン付近の作業は、一般車に注意する。 カッターの深さを決定する時、橋梁上などは舗装厚が薄い所があるので床版を傷つけない様に注意し深さ決定を行う。</p>
切削・はつり工	<p>・ユニックにて荷台から飛散防止ネット(重量タイプ)を車線反対側に吊り下ろす。 ・飛散防止ネット(重量タイプ)の組立</p> <p>・施工箇所へ移動 ・ロープ及び土糞による転倒防止対策実施</p> <p>・現場での確実な安全確認の実施体制(実施方法) ■点検項目 ①ロープ固定 : 控えの位置は適切か、たるみがないか、注意喚起がされているか ②土糞固定 : 設置位置は適切か、設置数量は適切か、土糞質量(10kg)は適切か ③飛散防止ネット : 隙間がないか、破損していないか、設置位置は適切か ■現場での悪天候等による実施判断 ①前日 : 天気予報により工事担当者が判断 ②当日 : 天気予報により現場責任者と工事担当者が判断 ③現場での悪天候等 : 作業中断する場合は、両柱に土糞を1袋追加する。また中止にあつては、現場責任者から工事担当者へ報告を行い、工事担当者はHCSと調整の上、現場責任者へ中止指示を行う。 プレーカー、ハンマードリルを使用して、規定深さを確認しながら、はつりを行う。 はつり取りガラをダンプに積み込む。 はつり終了後は綺麗に清掃する。 深さ検測を行う。</p>	<p>・有資格者による作業を行う。(ユニック操作、玉掛) ・車線反対側の安全な場所で行い、留め金具等にてパネル連結を確実に行う。 ・四隅に4人配置し、監視員の合図で移動を行う。(一般車に注意) ・車線反対側の両柱上部をロープにより車両または防護柵等へ固定する。 且つ、同柱の1/3の位置にカラビナ付き土糞(10kg)を2袋吊す。</p> <p>・点検項目①～③に沿って作業従事者全員で安全確認を実施する。 ※現場巡回、安全パトロールにおいても、必ず安全確認を実施</p> <p>・悪天候とは、強風:10分間の平均風速が毎秒10m以上の風、大雨:降雨量が50mm以上の降雨、大雪:1回の降雪量が25cm以上の積雪をいう。</p> <p>人力ではつる時は、飛散防止網を設置し、はつりガラの飛散防止する。 マスク・耳栓・めがね・防振手袋等、作業に合った保護具を使用する。 舗装の悪い部分は、すべて取り除く。 一般車への飛散防止(コンパネ)を確実にを行う。</p>
乳剤塗布	<p>はつり面清掃後、乳剤散布機にて乳剤の塗布を行う。切断面等の着きにくい箇所は、刷毛などで行う。</p>	
舗設工	<p>トラックにて運搬したアスファルト合材を、フィニッシャーを使用し均一に敷きならす。この時5cm以上の厚みは、2回打ちとする。</p>	<p>工場発送時の温度から-20℃以下の物は、使用しない。 トラックの誘導時は、十分注意をする。</p>
転圧工	<p>プレートコンパクター、振動ローラーを使用し規定回数十分踏み固める。 2回打ちの場合も、同様とする。</p> <p>最終転圧終了後、カッターラインに防水材を塗布する。</p>	<p>一般車に正対し作業を行う。</p> <p>機械使用後は、水抜きを行い、歯止めをかって路肩に置く。 転圧回数は、試験舗装で決められた回数とする。</p>
養生	<p>転圧終了後、舗装温度が下がるまで、養生を行う。 出来型検測を行う。</p>	<p>・規制開放温度は、40℃以下で管理する。</p>
セメントミルク	<p>舗装区画を養生しセメントミルクを流し、振動ローラーで充填する。</p>	<p>充填時は周囲の車両や一般者に注意し必ず飛散防止処置を施す。</p>
片付け	<p>使用した道具、機材、余った材料等は、トラックに積み込み、最後に竹ぼうきなどで清掃する。</p>	<p>使用した道具等は、現場に忘れ物が無いように確認する。 はつりかす、合材かすが無い様に、綺麗に清掃する。</p>

作業編成(標準)		機材		資材		安全器具・保護具	
現場責任者	1名	舗装切断機	角スコープ	水	カチコートRX	ヘルメット	消火器
作業員	6名	コンプレッサー	竹ぼうき	PDプライマー	SS-B	反射(自発光)チョッキ	
現場監視員	2名	プレーカー	レーキ	PDボンド	As混合物	警笛	
先端監視員	1名	飛散防止ネット	振動ローラー	PDコムテボットパウダー		粉塵マスク	
		防水材溶解機	乳剤散布機			保護メガネ	
		攪拌機	振動ローラー			耳栓	

■注意事項(共通の指導事項)

- 1.作業に適した保護具を着装する。
- 2.センターライン付近の作業は十分注意する。
- 3.各作業は、有資格者による作業を行うこと。
- 4.はつり、清掃時、の小石等の一般車への飛散には、十分注意を行う。
- 5.火災防止処置を行う事。(消火器の設置)
- 6.保管等は、平積で保管する。
- 7.手持ち式振動工具については取扱を十分理解し、使用する。
- 8.作業で使用しない工具は、発電機を切るかコンセントを抜き、誤作動がおこらないようにする。
- 9.手持ち式振動切削工具は切削手袋・切削防護衣を着装する。
- 10.一人作業の禁止
- 11.現場で作業手順を変更する場合は作業を中止して、現場責任者から工事担当者へ報告を行い、工事担当者はHSCと調整の上、現場責任者へ指示をだすものとする。

